成果の説明書

(氏名) 木下まゆみ	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆研究</p> <p>・ 集団討論に関して</p> <p>科学研究費助成金基盤研究(c)に採択された研究課題<「協同知」の形成における視線の役割—集団討論での聞き手の同期性に注目して>に関して、コロナ禍により延期されていた学会発表を行った。内容は、討論参加者の身体動作の分類及び各頻度を計測し、発言内容及び各参加者の理解との関連を検討したものである。発表詳細は以下のとおりである。</p> <p>Kinoshita, M. (2021). The effect of bodily motions to show wants for a speech on activating turn-taking in group discussion. Presented at the 32th International Congress of Psychology (2021/07/20, Prague, online).</p> <p>また、新たに集団討論を行うことが困難であったため、既有データの再分析を進めた。発言権の移動の質をネットワーク分析により評価する方法を検討し、その成果を下記学会にて発表した。</p> <p>木下まゆみ (2021). 集団討論における過程評価の検討 話者交替のネットワーク分析 日本心理学会第 85 回大会 2021 年 9 月 1 日～8 日 明星大学 (オンライン)</p> <p>・ 出版に関して</p> <p>共著による心理学研究法に関する出版を企画し、打ち合わせを行った。</p> <p>◆学会参加</p> <p>International Congress of Psychology、日本心理学会、日本行動計量学会、日本共同教育学会、電子情報通信学会 HCS 部会</p> <p>◆授業以外の教育への取り組み 教職実践演習の受講者を対象にワークショップ開催。インプロ・ジャパンより講師を招聘し、即興劇を中心としたオンライン・ワークを実施した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>高崎経済大学教員免許状更新講習にて、「教育の最新事情」を担当した。 群馬県教員育成協議会委員</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>科研費研究期間を延長し、今年度は 4 年目として、引き続き身体動作の同期性に関する時系列データを分析し、発言前後のインターバルにおける発言権の移動の指標としての機能を検討し、同期性を促進する介入方法についての知見を得る。</p> <p>また、今年度は「教育における ICT の利活用」に関する国内派遣が承認されている。学校における ICT 利活用の実際について、視察や文献収集を通じて現状を把握し、今後の展望について考察を行う。</p> <p>今後は、以上の 2 つの研究、すなわち集団討論による学習と ICT の教育利用を統合し、</p>	

コンピュータを介在した集団討論が参加者の議論スキル及び内容理解を向上させる可能性についても検討を深めていきたい。先行研究ではすでに議論におけるコンピュータ利用の効果が提示されている (e.g., 小学生を対象にした研究は、Larrain et al., 2021)。これを日本の教育実践に適した形で導入する可能性を探っていきたい。